

栃木県社会福祉士会会報



〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 発行 社団法人栃木県社会福祉士会
 TEL 028-600-1725 発行責任者 檜山 光治
 FAX 028-600-1730 編集責任者 長秀紀
 ホームページアドレス <http://www.tochigi-csw.org/>

40号

発行日 平成25年6月20日

羅針盤



会長就任のあいさつ ～あすへの基礎づくり～

社団法人栃木県社会福祉士会会長
檜山光治



羅針盤 会長就任のあいさつ	1
新理事・監事紹介	2~3
組織図	4
退任のあいさつ	5
福祉士おもいのたけりレー	6
授産製品・店舗紹介	6
共同事務所 6団体通信	7
福祉士会通信	8
編集後記	8

平成25年4月から大友崇義会長の後を引き継ぐこととなり、社団法人栃木県社会福祉士会の会長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願ひいたします。

最初に大友会長の20年間に及ぶ御尽力に心より感謝を申し上げます。大友会長には、設立当初から会長として強力なリーダシップを發揮していただき、栃木県社会福祉士会の組織・運営の基盤整備から社団法人化を進め、県及び各機関等からの事業の受託や審議会等への会員の推薦派遣を実施するなど社会福祉士の地位向上に努められました。

また、福祉関係専門職6団体の連携を司るとちぎソーシャルケアサービス従事者協議会を設立し、とちぎソーシャルケア学会の運営、フォーラムの開催及び広報誌の発行を行い、全国の道標となっています。特に、福祉プラザ内にとちぎソーシャルケア共同事務所を設け、参加6団体の円滑な事業運営の基盤となるなど多方面にわたり御尽力をいただきました。会員を代表いたしまして、改めて感謝の意を表したいと思います。

さて、社会保障・社会福祉は、人口構造や地域社会構造の変化等により、益々複雑多岐化しています。社会保障制度改革国民会議、規制改革会議等で持続可能な社会保障制度の確立を図るため、介護・医療・年金・公的扶助制度等多方面による検討がなされ、様々な意見が飛び交っています。これらの検討結果は、社会福祉の構造に大きな変化をもたらしますが、社会福祉士倫理綱領の倫理基準に従って、利用者に寄り添う支援を図り、地域ニーズから発信することがより一層重要となります。

地域包括ケアシステムが叫ばれており、自助、互助、共助及び公助のすべてのケアが提供されることが、利用者の人生を反映し、人と人との交わりにより構築することになります。井戸端会議（住民の日々の語らい）がいかに大切かを思い起こすことかもしれません。

社会情勢の変化等に対し、専門的対応ができる認定社会福祉士及び上級社会福祉士制度が始まりました。基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ及び専門研修を履修して資格を得ることになります。

日本社会福祉士会の組織は、個人会員から各都道府県が会員となる連合体組織に移行しました。当面、会員管理等事務処理を委託契約に基づき、日本社会福祉士会が行っています。しかし、認定社会福祉士に対応する「生涯研修制度」の構築や「権利擁護センターばあとなあ」の移行に伴う運営など、多くの課題が山積しています。

本会は、一般社団法人に移行しますので、法令遵守を基本に置きながら、自立運営の確立を目指していくかなければなりません。事務局体制の構築、財政基盤の確立、理事会・委員会運営の充実、特に、個々の能力・知識を活かした、地区ブロック活動の強化が求められています。本会の加入率の向上や会員の委員会・ブロック等の参画を図るために、営利組織よりも上手なマネジメントが求められていると言われています。

今期から理事が増員され、委員会の委員長を兼ねるとか、担当理事として委員長とともに運営を担っていきますので、委員会のマネジメントが強化されます。しかし、会員の皆様の参画がなければ機能しませんので、是非とも皆様のお力添えをお願いいたします。

最後に、エンドレス（不断）の運営努力に励むとともに、会員の皆様の積極的な提言（発言）や活動への参画を期待しています。



**平成25年4月1日～2年任期で新たに理事および監事になられた方々を紹介します。
どうぞ皆様よろしくお願ひいたします。**

掲載内容：①氏名、②氏名(ふりがな)、
③所属名称、④職種名、
⑤マイズーム、⑥社会福祉士会
の役員になっての抱負。

①檜山 光治（会長）

②ひやま こうじ

⑤文学・歌詞の意味を思考することにより、
そのときの作者の心情を想い巡らすことと、
既読の本を読みなおして、新たな意味を教示される喜びの時間。

⑥協働の仕組みと法令遵守による組織体制の構築です。会員の皆様の意見・提言・参画等御協力をお願いします。



①松永 千恵子（副会長）

②まつなが ちえこ

③国際医療福祉大学

④准教授

⑤猫！です。昨年4月に愛猫の“たま”がこの世を去り、一時「ペットロス症候群」になってしまいました。犬も実家で飼っていた“ひらり”が16.5歳で大往生し、今はダブルパンチの寂しさです。

⑥前期に引き続き、栃木県社会福祉士会の研修を担当させていただく理事及び副会長に就任いたしました。昨年から、日本社会福祉士会は生涯研修制度を大幅に変更し、それまで都道府県県士会により行われていた基礎研修を基礎研修Ⅰ、基礎研修Ⅱ、基礎研修Ⅲと改め、研修内容も回数、講義内容とも拡充し、都道府県県士会はその基礎研修の開催・運営を担うこととなりました。基礎研修の内容には未だ変更・修正部分があつたり、都道府県への資料の送付や事務連絡も開催の1か月前であつたりと綱渡り状態です。生涯研修制度激変の時期に研修担当の理事となり、会員の皆様の研修を担当することの重大さに、常に責任を感じております。研修では、不都合の無きよう研修委員会の委員の皆様ともども頑張っていく所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。



①原田 欣宏（副会長）

②はらだ よしひろ

③高崎健康福祉大学

④講師

⑤ジョギング。ダイエットのために始めたのですが、体調がよくなってちょっと楽しくなっています。

⑥会員の皆さんのが参加する仕組みづくりに取り組みたいと思います。それぞれの地域で活動することで社会に貢献する社会福祉士を、皆さん的手で作り上げる場が必要です。これまで参加できなかつ方も、ぜひ足をお運びください。



①大石 剛史

②おおいし たけし

③国際医療福祉大学

医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科

④講師

⑤ランニング（来年フルマラソン完走を目指します！）

天体観測（今年望遠鏡で初めて土星を見て感動！）

アウトドアキャンプ（家族で楽しんでます）

⑥私の担当は、栃木県のソーシャルケア関連団体で組織する「とちぎソーシャルケア従事者協議会（以下；協議会）」の連携担当と、調査研究です。協議会ではここ数年、夏に行われる「とちぎソーシャルケアサービスデー」と冬に行われる「とちぎソーシャルケア学会」の2つのイベントを通して、特に関連職種と連携する「地域包括ケア」のあり方について



議論・研究を深めています。6団体の関連職種連携の研修も現在企画中です。社会福祉士会のメンバーのみならず、県内の関連職種の連携を深められるような仕事を、責任を持ってやっていきたいと思います。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

①高田 美保

②たかだ みほ

③社会福祉法人上三川町社会福祉協議会上三川町地域包括支援センター

④地域包括支援センター係長／社会福祉士

⑤20数年ぶりに再開した吹奏楽です。以前はファゴットを吹いていましたが、今は、なぜかバーカッションを担当しています。8月には初ステージの予定ですが、果たしてそれまでにうまくたたけるのか、とても不安。必死に練習している毎日です。いや、毎日はやつてないかな（笑）

⑥私たち社会福祉士が、虐待に苦しむ人たちにとって役立つ存在でありたいと思います。



虐待に取組むことは、支援者等も含めた虐待の渦の中にいる人たちの誇りや尊厳に関わることです。社会福祉士会としての虐待への取組みを通じ、全ての人が生きていてよかったと思える地域になるよう活動を続けていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

①高津戸 信也

②たかつと しんや

③社会福祉法人恩賜財団済生会支部
栃木県済生会高齢者ケアセンター
特別養護老人ホームとちの木荘

④施設長

⑤スロージョギングでメタボ脱出！した？

⑥地域包括支援委員会の担当理事として、地域包括ケア体制の中核を担うことが期待されている地域包括支援センターの社会福祉士が活躍できるよう、微力ではありますが、会員の皆さんと力を合わせて活動していきたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。



①永島 徹

②ながしま とおる

③NPO法人風の詩 社会福祉事務所「風の
ささやき」

④社会福祉士

⑤特にありませんが、強いて言えば、この独立開業して10年間。この中で、日々、様々な機会と個性豊かな方々と出会うことが、とても有意義で樂しまれる事です。

⑥ひとり一人の安寧な地域生活の営みを支援することが、私たち社会福祉士の役割と考えております。その支援を行っていく社会福祉士が、より良い実践が行えるような機会に寄与していくよう、当会の維持・継続・発展に貢献できたらと考えております。会員の皆様、宜しくお願ひ致します。



①矢口 隆一

②やぐち りゅういち

③社団法人栃木県社会福祉士会

④事務局長

⑤旅行、麺（蕎麦、餡飴（うどん）など）作り

⑥二期目。事務局の運営・管理を担当。財政力と入会率の向上そして事務局体制の充実



が目下の課題です。会の活動が更に活発になることがこれらの解になると考えます。また、事務局は事務量が増加し飽和状態にあります。ご理解をお願いします。併せ、社会福祉士の認知度と地位の向上に微力ではありますがご協力していただきたい。

- ①岩崎 俊雄
②いわさき としお
③社会福祉法人 すぎのこ会

④理事長

⑥社会福祉法人制度改革が急激に進行する中にあって、社会問題化している生活困窮者への対応が求められている。それは、社会福祉士会に向けられた課題でもある。国民の声に答えられるか、組織の命運がかかっていると言つても過言ではない。行動する以外に答えはないと思っている。

- ①金澤 林子
②かなざわ しげこ
③社会福祉法人 とちぎYMC A福祉会

④地域包括支援センター相談役

⑤插し芽が難しいといわれている金宝樹（ブラシツリー）。昨年插し木、新しい葉が何枚もつき、根ついたようです。朝な夕なに“声かけ”的毎日です。

⑥国の認知症対策推進五年計画の中で認知症高齢者の権利擁護推進支援を打ち出し制度の利用促進を図ると明言している。そのような社会状況のなかで市民後見人の育成が推進されていくと思うが、社会福祉士会がその成年後見の担い手としての市民後見人の養成や育成に力を注いでいただけるよう期待しながら見守っていきたい。また、外部理事としての役割をもう一度自分の中で考えていきたいと思っています。

- ①高橋 昭彦
②たかはし あきひこ
③ひばりクリニック／特定非営利活動法人うりづん

④院長／理事長

⑤甘いもののお店を探訪し、紹介すること

⑥このたび理事に就任いたしました高橋昭彦

と申します。障がいや病気、暴力、貧困など、さまざまな理由で社会から排除されたり、孤立してしまう人がいます。社会福祉士としてご活躍の皆さんと一緒に、どんな人も排除しない社会を目指して、微力ながら活動していきたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

- ①遠山 恵一
②とおやま けいいち
③栃木県保健福祉部

④行政職

⑤J R東日本大人の休日俱楽部で行く国内旅行、温泉、グルメ旅

⑥以前、県の障害福祉課において、障害者福祉行政に携わっておりました。それまでの支援費制度から、身体、知的、精神を合わせた障害者自立支援法への移行する時期で、多くの障害者関係の団体の方々に制度の説明をしたり、多くの御意見や福祉の実情を聞く機会をもつことができたことを覚えています。

今年の3月まで、栃木県社会福祉協議会に事務局長として在職しておりました。在職中には、主に判断能力の不十分な方々への日常生活支援事業「あすてらす」や成年後見事業の普及啓発や法人後見などに携つておりました。まだまだ不慣れではございますが、今後ともよろしくお願ひいたします。

- ①福田 恵美子
②ふくだ えみこ
③N P O法人小山こども発達支援センターりズム園／指定相談支援事業所フリージア
④顧問・理事／管理者／作業療法士
⑤ウォーキング、ガーデニング、野菜作り、編み物、楽器を楽しむ（介護の合間に可能な楽しみを見つけて楽しんでいます）

⑥現在の社会事情から、包括的に多職種をまとめていけるリーダーが必要を感じていました。その適任職種として挙げられる貴会の檜山会長からご依頼があり、微力ではありますが、保健・医療・教育・福祉の領域でお手伝いができればと考え受け致しました。対象者のニーズを、良い方向に解決できる社会を構築していきたいと思います。



- ①古市 照人
②ふるいち てるひと
③獨協医科大学医学部リハビリテーション学教室
④教授

⑤防衛装置システム見学
⑥かつて、中世の医学は、病気と病人を分離することに奔走した。病理・病態を個人から分けることで病気を個人的な責任や差別と決別することになると信じて公衆衛生的に現実を変革することができた。しかし、遺伝子レベルまで個人が特定される現代においては、社会と個人の連鎖が注目され、病気だけを診るのではなく個人を診ることが求められるようになった。先日、福祉関係の先人の講演を拝聴する機会があり、福祉サービスは社会福祉従事者が当事者にならない限り充実しないといわれていたが、高齢社会の進行は過去・現在・未来の自分だという新たな福祉思想となり、自他を統合した総体の変革を迫っていると解説された。思想と現実を変革する道しるべであり、自己の生存をかけた社会システムの創造が問われていると教示いただいた。このような現実との変革の場に自分も参加できている幸運に感謝する。



- ①首長 正博
②しゅなが まさひろ
③栃木市役所地域医療対策室 とちぎメディカルセンター派遣

④行政職

⑤最近ヒットがありません

⑥「相談援助の専門性って何だろう」最近、仕事柄医療関係者との付き合いが増えている中、常に考えさせられています。その答えを、会の皆様方と考えながら、監事の役割を果たしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

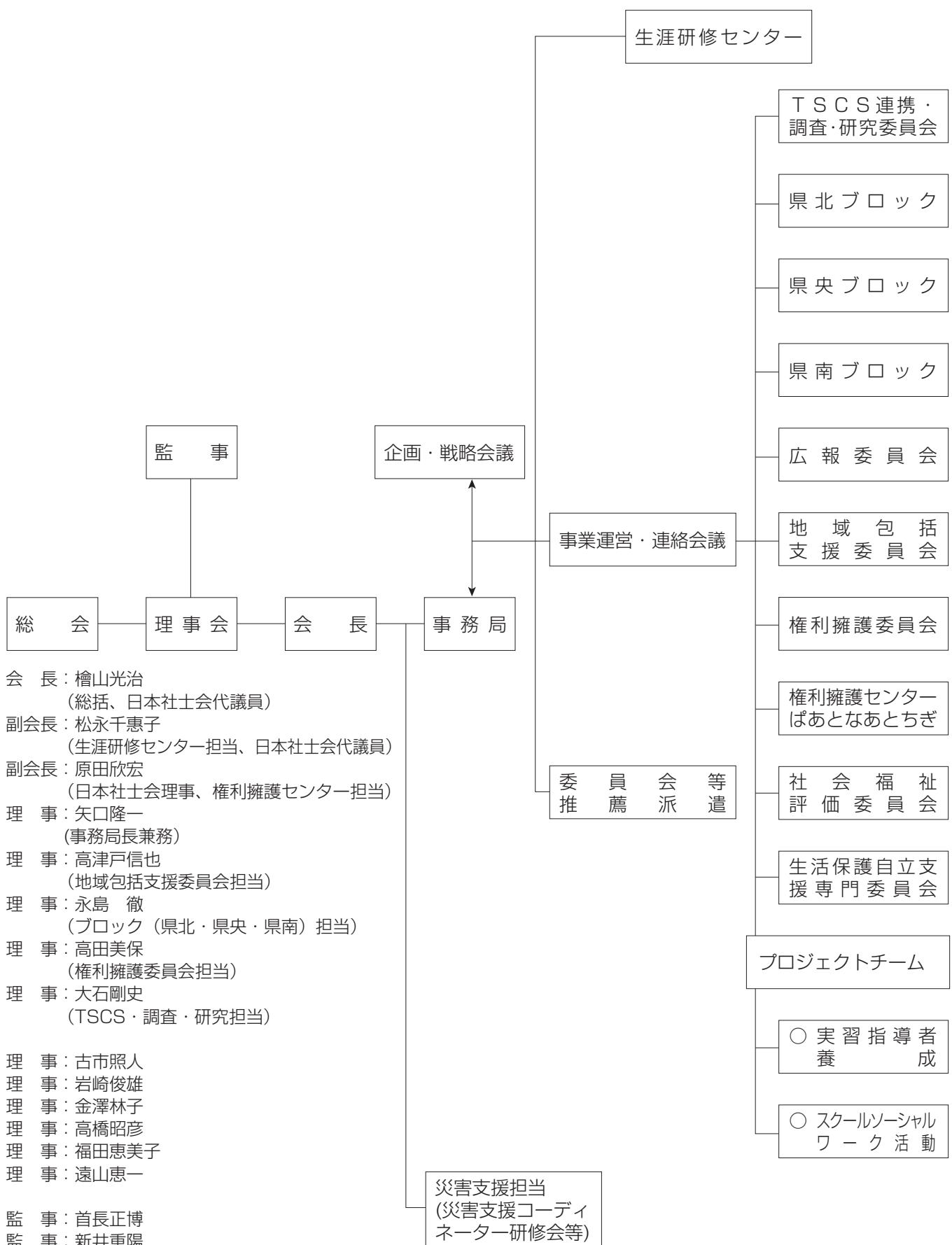


- ①新井 重陽
②あらい しげあき
③とちぎユースアフターケア事業共同組合
⑤我が家の環境整備

⑥新任監事の新井です。会員としてもまだ日の浅い私ですが、少しでも会に貢献できるよう頑張りますので、よろしくお願いします。県職員として児童相談所や福祉事務所など福祉現場に長く從事し、県退職後に知的障害者施設に勤務しました。利用者の皆様の幸せと支援者の皆様の努力が報われる真の福祉社会を願っています。



平成25年度 社団法人栃木県社会福祉士会 組織図



栃木県社会福祉士会長の辞任に際して

とちぎソーシャルケアサービス従事者協議会代表 大友 崇義



1987年に高齢化社会を見据えた社会福祉士法が成立し、全国的に会の組織化が進み、本県では、1994年に会員の10名がすべて理事となって「栃木県社会福祉士会」を発足させた。初代会長になって20年が経過したが、04年に成年後見センターの設置、07年12月に社団法人格の取得、県から生活保護自立支援プログラム事業の受託、県市への各種公的委員の派遣、08年に専門職5団体事務の請負、3人の専任事務局体制と専用事務室の確保と拡充、第三者評価事業機関としての認知、11年にとちぎソーシャルケアサービス従事者協議会事務局の設置、12年に生涯研修センターの設置構想、認定社会福祉士研修事業の取組を開始するなど組織基盤を強化し、会員も436名を超えた。

このたび任期満了により辞任することになったが、この間、各種委員会、各会員及び事務局員等の献身的な支えと多くの関係機関及び関係者の暖かい支援に支えられ、無事に任を果たせたこと心から感謝を申し上げたい。

私自身、社会福祉を志して50年が経過するが、とくにこの20年間は、1995年の阪神大震災とオウムサリン事件、2011年の東北大震災と福島原発問題が生じ、自然のカタストロフィが社会システム全体の課題を炙り出した稀有な時期であったと考えている。いつも災害はこども、女性、障害者、高齢者等に集中し、社会システムの限界を可視化する。

社会保障・社会福祉システムとは、人類が700万年をかけて自然と社会の破局に対応し、編み出してきた「生存保障システム」である。21世紀は、世界に格差社会をもたらした。

我が国でも、非正規雇用、ワーキングプア、生活保護受給者、単身高齢者、要介護者、認知症、自殺、虐待、いじめ、家庭内暴力、無縁孤独死、多重債務、精神障害者、無年金者、高齢者・知的障害者の窃盗犯、無業者等の新たな問題が拡大した。

超高齢少子社会に対応するため、2000年から社会福祉基礎構造改革が進行中であるが、これらの新たなニーズにまだ十分に対応しきれず、第二次の本格的な社会保障・社会福祉構造改革が急がれている。これら7,000万人に及ぶと推計される対象の増加は、一挙に社会保障・社会福祉の課題は、明日は我が身というすべての人々の普遍的課題となった。

「社会保障」という言葉は1929年の世界大恐慌時に

米国で、「福祉国家」という言葉は1942年にナチズムの「戦争国家」に対するアンチの言葉として英国で、高齢者に限定した「介護保険」という言葉は、2000年に日本で誕生した。全人的な破局が集中するのは、貧困者、自殺、孤独死、認知症、統合失調症等の人々であり、これらの人々には共通して社会のシステムの機能不全が連鎖している。近年の生活保護受給者の増加に対するバッシングの特徴は、1601年の英國の救貧法以来の自立性の強調であるが、重要なことは現代の自立の構造は、多様化、複雑化した社会システムの機能不全と相関関係にあると分析されていることである。米国の政治学者であるジョン・ロールズが提唱した最もニーズの高いものに資源を優先的に配分するという「格差原理」の哲学とは、真逆な「格差原理」が強調されているのが我が国の特徴である。誰もが避けたいと思っている認知症は、最新データーでは462万人と推計され、その本質的な原因は「孤独の極北」と考察されている。

孤独とは、所得、雇用、健康、家族、交流、移動等の社会システムの機能不全の結果である。かつて、ある詩人は日本の家庭のすべてに、ひとつの不幸があると表現したが、現代を正確に言い当てている。NPO法人自殺対策センター代表の清水康之は、自殺には69の社会的な危機要因が連鎖し、自殺の90%は他殺であると法監察医の上野正彦は分析している。

かつてベヴァリッジは「ゆりかごから墓場まで」という社会保障プランを提唱したが、人間の意欲と無意識の関係を分析したフロイトを考慮すれば、「胎児から墓場まで」という言葉に変える必要があるだろう。社会システムは価値規範と専門性の高い専門職によって維持される。社会福祉士は世界の倫理綱領を共有し、カウンセリングから社会のシステムを構築する技術を目指す職種である。社会福祉士は全国では、16万人、本県も2,000名を超えた。社会福祉士は、人間が生きることの全体性を支える専門性を磨き、利用者、家族、地域、職場等のあらゆる関係者と協働し、着実な実践の積み重ねが何よりも重要である。

社会福祉士は、常に対象の真実に誰よりも身近に存在していることを大切にし、誰からも信頼される職種になることを心から願っている。



福社士 おもいのたけリレー

- ①佐藤 敬子（さとう けいこ）
 ②社会福祉法人 恵友会 障害者相談支援センター桜花
 ③旅行、カメラ
 ④繰り返す日々の中で、ふと初心に立ち返る時、「一期一会」ということばが頭に浮かびます。今、この瞬間の出会いによって、時には笑ったり、泣いたり。その積み重ねで心の豊かさは



県内で活躍する社会福祉士が、実践への「おもいのたけ」を語っていくコーナーです。このコーナーは、リレー方式で次の社会福祉士につないで掲載していきます。

掲載内容：①氏名(ひらがな)、②所属、③趣味、④実践へのおもいのたけ

広がってゆく。一つひとつの出会いを大切にする気持ちは、温かさや思いやり、優しさを生み出し、良き仲間との出会いにもつながります。私は社会福祉士会でも仕事でもプライベートでも、今、この瞬間、かけがえのない出会いによって支えられています。改めて沢山の一期一会への感謝を忘れずにいたい、そう強く思うのです。次回は、「小林敏夫行政書士事務所」の小林敏夫さんにリレーします。

授産製品・店舗紹介

ふくしレストランCIAO

電話：028-623-2924

「いらっしゃいませ。」県庁昭和館の2F、自動ドアが開くと聞こえてくる元気なあいさつ。待っているのはすてきなスタッフの笑顔。

『ふくしレストランCIAO』は2008年1月8日、県庁の新庁舎オープンにあわせて開店しました。お客様に“来て良かった”と思ってもらえるようなお店づくりを目標に、スタッフは日々練習を重ねています。

料理は旬の野菜を豊富に使い、地産地消にこだわったからだにやさしいものばかり。すべて手作りです。みなさまのご来店をスタッフ一同心からお待ち申し上げます。



●ランチメニュー●

旬菜プレート	……¥650
ビーフカレー	……¥650
CIAOスペシャル	……¥800
ランチドリンク	……¥100
スイーツセット	……¥300



ビーフカレーは、“栃木和牛にすりおろし野菜たっぷりのルゥ”のオリジナル

場 所：宇都宮市塙田1-1-20

栃木県庁敷地内 昭和館2F ①有り

営業時間：10:00～16:00

ランチ 11:30～13:30

定休日：土・日曜日・祝祭日

運 営：社会福祉法人すぎの芽会

サポートセンターとみや

このコーナーでは、障がいのある方々が作る、授産製品および販売店舗の紹介をします。

喫茶どんぐり

電話：0283-27-1860 FAX：0283-27-1870

どちのみ会は地域住民の憩いの場として、障害者の居場所づくりと障害者の働く場所として空き店舗を活用し、喫茶店を営業しています。おいしいものを出来るだけ格安にモットーに、施設和泉の畑で収穫した野菜を使い、飲み物付きのセットメニューをワンコイン(500円)で提供しています。

地域の方々にも評判になり、固定客が増えてきています。是非お立ち寄りください。

営業日時

月～土曜日（休業日は日曜日と年末年始5日間等）

11時～17時30分

●メニュー●

ランチセット(500円、サラダ・飲み物付き)

スパゲティー、カレーライス、カレーライスとうどん・そば、ピザ、スタミナうどん・そば、週替わり（しゃぶしゃぶ、肉だんご、ロールチキンカツ等）

飲み物(200円、クッキー付き)

コーヒー、紅茶、ウーロン茶、オレンジジュース、フルーツジュース

デザート(100～200円、飲み物セット300円)

アイスクリーム、ミニチョコ、シフォンケーキ、白玉あずき

※どちのみ会喫茶どんぐりでアクセスするとブログを見る事ができます。

場 所：佐野市大町2751-1 ②有り

営業時間：11:00～17:30

定休日：日曜日と年末年始5日間等

運 営：社会福祉法人どちのみ会 和泉



共同事務所 6団体通信

ソーシャルケアサービス共同事務所に所属している各団体の活動を紹介する掲示板です。

栃木県医療社会事業協会、栃木県介護福祉士会、栃木県ホームヘルパー協議会、 栃木県精神保健福祉士会

栃木県医療社会事業協会 会長 小嶋 章吾

今年度は創立58年目にあたります。この5月には、107人の会員で総会を迎える、同時に第10回学会を開催しました。

昨年度は、『病院マップ』の発行、関東ブロック医療ソーシャルワーカー協会主催による震災シンポジウムへの参加、全国医療ソーシャルワーカー会長会への加入などを進めてきました。また、とちぎケアマネジャー協会との合同研修会を契機に、栃木県看護協会とともに3団体で、「入退院共通連携シート作成委員会」を設置するなど、連携と協働の輪を広げることにも力を注いできました。

今年度は、例年どおりブロック単位の活動の発展、新人研修会、各ブロック主催の研修会、医療ソーシャルワーク実習報告会（他県の大学等の実習生や教員を含む）、国際医療福祉大学への講師派遣、各種公職、未加入者の入会促進などの組織強化、とちぎソーシャルケアサービス従事者協議会や所管の栃木県保健福祉部との連携強化を進めていくほか、第10回学会でテーマとなりました支援困難事例検討会をはじめるとともに、会員の活動や研究成果の交流を図るために、念願としていました栃木県医療社会事業協会誌『あゆみ』を復刊することになりました。乞うご期待下さい。

栃木県介護福祉士会 会長 岩原 真

平成25年5月に「総会」を開催し、役員の約3分の1が入れ替わり新体制としてスタートしました。昨年は、20周年と関プロと大きな事業が重なり充実した一年でした。入会者もここ数年低調でしたが、昨年は50人以上の新規会員に加わっていただくことが出来ました。また、共同事務所各団体の皆様には大変お世話になりましたありがとうございました。

さて、日本介護福祉士会では、一昨年に、認定介護福祉士の中間報告をまとめ、昨年モデル研修を実施し本格的に認定制度に向けた取りまとめを行っています。地域包括ケアシステム構築に向け、地域で暮らす障害者や高齢者等が安心して生活ができるよう生活支援の専門職種として、他職種間連携の中心として活躍できる知識と技術、合わせて人材育成が必要です。

栃木県介護福祉士会においても、研修の充実は必要不可欠であり、「基礎編」「応用編」等段階的に学べる体系を作り上げたいと思います。

今後も、当会の活動にご理解とご協力をお願い申しあげます。

栃木県ホームヘルパー協議会 会長 仁平 明美

昨年は8回の研修会とTBC教育センター協賛の研修1回、計9回の研修を開くことが出来ました。今年度は下記の内容を予定しています、会員外は勿論ですが、訪問介護業務の理解を得るためにも、介護業務関係者の参加も歓迎します。問い合わせください。

- ・1回目、介護現場で今困っていることは（7月6日）
- ・2回目、一回目で明らかに成了った問題に関する解決を図る（8月24日）
- ・介護技術の基本（参加した事業所の技術伝達研修に支援講師派遣あり）
- ・事例を通して学ぶ個別援助計画とアセスメント（高齢者編・障害者編の2回）
- ・排泄介護（オムツ交換、トイレ介助だけが排泄介護ではない）
- ・県の介護保険の現状や要望を聞く（詳細は検討中）
- ・TBC教育センター協賛研修（介護職が行う医療器具に慣れる・サービス管理責任者や管理者向け研修等詳細は検討中）

以上、皆さまの参加お待ちしています。

栃木県精神保健福祉士会 会長 高井 正己

2014年度に「人権」、「権利擁護」を観点に精神保健福祉法の改正が行われます。現在でも法改正に関する様々な情報が伝わってきていますが、最終的には「対象者等の利益」につながる法改正となるよう情報の発信を行っていきたいと考えております。

栃木県精神保健福祉士会としましては、昨年の研修実績が少なかったこともあります。今年度は研修会の質と量の充実を図っていきたいと考えております。また学術部門に関しても知識・技術の追求を行っていきます。理事・会員の皆様の資質の向上に努めるとともに、ロールモデルとしてのその役割を果たせるよう研鑽して参りたいと思っております。当会会員等と連携・協働する機会があると思いますので、その際はどうぞ宜しくお願い致します。

栃木県社会福祉士会のブロック会・委員会・PT(プロジェクトチーム)の活動を紹介する掲示板です。

福祉士会通信

*社会福祉士の皆さま、日頃の実践の質を高めるため、福祉士同士の輪をつくるため、是非会活動に参加しましょう。
福祉士以外の方におかれましては、ブロック会等で研修会等を企画しております。是非ご参加ください。
お問い合わせは、栃木県社会福祉士会までお願いします。

県北ブロック、県南ブロック、広報委員会、社会福祉評価委員会、生活保護自立支援専門委員会、研修委員会、TSCS連携・調査研究委員会、権利擁護センターぱあとなあとちぎ

県北ブロック

福原 健治
今年度の県北ブロックの活動計画は、次の通りとなります。

- ・ 6月25日（火）…「合格者を祝う会」と「親睦会」
- ・ 8月31日（土）…「事例検討会」と「親睦会」
テーマ：「精神障害者の就労支援」
- 事例提供者：（株）ウイングル 那須塩原センター
センター長 石井 一弘 氏
- 場 所：鳥の目公園（那須塩原市）
オートキャンプ場
- ・ 10月未定…「刑務所見学」
テーマ：刑務所の実態把握と社会福祉士として関わることは？
- 内 容：現場見学・説明、質疑応答
- 場 所：黒羽刑務所（大田原市）

その他、7/17に那須野が原青年会主催の「みんなで話そう那須野が原」に参加予定

また、他の団体とタイアップして「地域包括ケア」の研修会も検討しております。その都度、ご案内いたしますので、ぜひご参加ください。

県南ブロック

藤見 雅嗣

総会の後の会議でも話が出ましたが、今年度は県南ブロックを2ヶ所以上で行えるような計画を立てました。また、テーマを「つなぐ人、つながる人」と題して、例えば、「地域定着支援センター」、「ぱあとなあと」、精神科病院のPSW、リハビリのセラピスト、心理士などなど、参加者の地域と一緒に仕事をする人たちと一緒に勉強会を開催します。まずは7月10日に足利愛光園で予定をしています。9月を目安に栃木市や下野市周辺で開催できるよう進めています。

広報委員会

長 秀紀

広報委員会では、ホームページの管理・運営と会報誌の作成・編集・発行を行っています。3月21日に今年度の会報内容を検討する委員会を開催し、6月18日に今号の編集を行いました。

今号は、新しい理事監事のもと新たな組織体制でスタートした会をメインにご紹介した形になっています。今後とも手作りの会報にご期待ください。また、広報活動を一緒に行っていただける会員を募集しています。ご希望の方は事務局までご連絡ください！

社会福祉評価委員会

小野二千光

社会福祉評価委員会は県内の福祉関係事業者を対象に、利用者に対するサービスの質の向上や情報の提供等の支援を目的として活動しています。私たちは他の施設の特徴や改善点に接することで、社会福祉士としての専門性が更に向上できるチャンスが与えられていく感じています。

1月～3月は地域密着型サービス事業所に対する外部評価が集中しましたが、無事完了し4月までにワムネット上に公表致しました。5月～6月の活動は25年度の活動に向け受任活動及び受任事業所に対する評価実施計画の策定です。

7月以降は、計画に基づく評価活動の実施です。ま

た今後の活動充実のための養成研修及びスキルアップ継続研修を予定しています。当委員会に興味のある方は事務局までご連絡お願いします。

生活保護自立支援専門委員会

太田 芳一

平成24年度の生活保護受給者に対する自立支援業務は、9人の自立支援業務は、9人の自立支援専門員体制で実施してきましたが、自立支援延件数は590件に上り一応の成果を上げることができました。25年度は生活保護行政に置いて自立支援が更に強化されようとしている中で、文字通り精鋭8人の自立支援専門員体制で多くの困難事例に対し、各自立支援専門員が力を合わせて頑張っていきたいと考えています。

研修委員会

千葉加代子

研修委員会では、1月16日に「もう一度学ぶ生活保護」研修会を開催し56名が参加、3月17日には「障害者関係の法改正と障害者の支援」研修会を開催し42名が参加し基礎的な知識の確認と専門性を向上させる意見交換がなされました。また、昨年度始まった新たな生涯研修制度の「基礎研修Ⅰ」においては、2月17日に集合研修2日目が開催され、22名が無事修了することができました。今年度も会員のニーズに則した研修会を年3回実施予定です。皆様ふるってご参加ください。

TSCS連携・調査研究委員会

大石 剛史

「栃木県内の社会福祉関連六団体で構成している、とちぎソーシャルケアサービス従事者協議会では、7月28日（日）13:00より、とちぎソーシャルケアサービス従事者デー公開セミナーといたしまして、『栃木県における地域包括ケアシステム構築に向けて～認知症になってしまっても地域で暮らし続けることの出来る社会の実現を目指して』を開催します。講演会及び、県内の認知症ケアの第一線で活躍する専門職、当事者団体の方などによるシンポジウムを企画しています。ぜひ、ご参加ください！」

権利擁護センターぱあとなあとちぎ

原田 欣宏

【成年後見制度活用講座】

3/1～2に実施しました。本年はこれ以外にも2月にプレ講座を開催し、好評でした。制度利用に悩みの多い人が、専門職の間でも多いことがうかがえます。来年も実施しますので、ご期待ください。

【運営委員会】

新年度より3名増員して、機能強化に努めています。

【フォローアップ研修会】

奇数月第2土曜日に実施します。詳細はチラシ、HP、会員MLを確認ください。

（会員無料：要事前申し込み）

編集後記

梅雨入りし、じめじめした日が続いています。私の周囲には風邪気味の人が多いので、皆さんも体調管理には十分気をつけてください。福祉は体が資本です。（赤坂）